

人間らしく働くための 2019 長崎宣言 (案)

「健康権をすべての働く人びとに」

1990 年 6 月、働く人びとのいのちと健康を守る学習と交流の場として九州セミナーは「人間らしく働くために 労災職業病九州セミナー」としてスタートした。2010 年の第 21 回北九州大会から、セミナーの名称を「人間らしく働くための九州セミナー」に発展的に変更し、セミナー運動を発展させてきた。不当な長崎北松じん肺福岡高裁判決を打ち破ろうと「なくせじん肺全国キャラバン」も九州セミナーと同じ年に開始された。

私たちは働く人びとの「健康権を確立する」ことを提唱してきた。過労死や労災職業病のない、真に人間らしく働ける職場・地域づくりをめざし、「人間らしく働くための九州セミナー」を毎年九州・沖縄各県の持ち回りで開催し発展させてきた。セミナー運動は「学び・調査・行動する」一貫した活動を行ってきた。さらにこうした活動を九州各県各地で着実な活動を行っている地域組織や労働組合・職場組織、患者、医療機関や弁護士、学者研究者などの専門家との連携の中で育んできた。

2019 年 11 月 30 日、12 月 1 日両日、長崎市で「国際的視点で考える、働く人々の健康権」を基本コンセプトに第 30 回記念大会を開催し、500 名を超える働く仲間が、働く人びとの健康権確立に向けて学び・交流した。

30 年の取り組みを通じて、私たちは人間らしく働く権利の実効ある確立を目指して制度改革を含めた国民的運動を提起し以下の宣言を行う。

すべての働く人びとには健康で安全に働く権利＝健康権がある

私たち働くものには健康で働く権利がある。これは日本国憲法が保障している働くものの基本的人権である。

その前提となるのは、安定した生活ができる雇用が確保されることである。同一労働同一賃金を確立し、働く貧困層・ワーキングプアをなくす。

狭義の「労働者」にとどまらず、自営業者やフリーランス、外国人技能実習生をはじめ外国人労働者を含む全ての働く人びとが生活できる収入と安全な職場環境を保障する制度の確立を求める。

私たちは自らの労働を安全に行い、その危険要因や回避可能性について知る権利がある。

さらに、危険な労働から自分から離脱する権利を有する。

健康に配慮した適切な規制の強化

働らかされ過ぎによる健康障害を予防し、人間らしい働き方を実現するためには、労働時間の規制はなにより重要である。労働基準法が定める 8 時間労働制の再確立が求められる。さらに、労働と次の労働との間隔（インターバル）を 11 時間以上とすることの義務化は早急に実現すべきである。

際限のない 24 時間社会化に対する規制も大切である。温暖化など環境面からも重要な課題と

なっている。夜勤・交代勤務を必要不可欠なものに限定し、生理的バイオリズムを崩さない労働に変換する必要がある。どうしても夜勤労働が必要な産業では、労働時間の短縮が行われるべきである。

全ての職場に労働安全衛生体制の確立

50人未満の職場を含む、全ての職場に労働安全衛生活動を確立する必要がある。

労働安全衛生活動は、国際基準を順守し働く人びとの参画権を保障し予防活動を重視して行う。有害作業の改善には人間工学を重視すべきである。

とりわけ作業改善が困難な零細企業には国の補助制度を含め実効ある体制確立を求める。

これらの改善を行うためにも、労働基準監督官など専門職の大幅増員を図る。

労災補償体制の確立、病気休暇制度の確立

業務によるケガや病気になった場合には、完全な補償が行われるべきである。その際主治医の診断を尊重した労災認定を行う。

労災・公務災害認定された職場における業務改善の報告制度の義務化など対策を強化する。

疾病にり患した時の病気休暇制度を法制化し、安心して療養するとともに回復した時の職場復帰する権利を確立する。

とりわけメンタルヘルス不全時のリハビリ出勤の制度化を求める。

平和的生存権の実現

戦争は「健康」と「幸福」の最大の破壊者である。戦争と貧困・不平等は密接な関係がある。設立100周年を迎えたILOは、1919年に制定した憲章で第一次世界大戦の悲劇を教訓に「世界の永続する平和は、社会正義を基礎としてのみ確立することができる」とうたい、1944年のフィラデルフィア宣言では「一部の貧困は全体の繁栄にとって危機である」と強調している。まさに、平和的生存権を実現する闘いが重要であることを示している。WHOもオタワ宣言の中で「健康」の前提条件の第一番目に「平和」を掲げている。すべての戦争政策に反対し、平和的生存権の実現を図る

私たちが共通のスローガンとして掲げてきた「人間らしく働く」は、ILO（国際労働機関）が1999年から提唱している「ディーセントワーク・DECENT WORK（人間として価値ある労働）」そのものである。まさに私たちがセミナー運動の中で学び・考え・目指してきた、人間らしく働く事の出来る職場づくりは国際的連帯の課題となっている。人間らしく働き、暮らせる職場・社会の実現を目指して全力で取り組もう。

以上、宣言する。

2019年12月1日
人間らしく働くための九州セミナー
第30回長崎記念大会